

大谷地地区人・農地プラン

市町村名	対象地区	作成年月日	直近の更新年月日
石巻市	大谷地地区 (新田、門答山、本地、吉野、岩崎、後谷地、 川の上、沢田、鶴家、五十五人)	平成24年3月	令和4年1月25日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積		977.0	ha	
②地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	田	772.8	ha	
	畑	73.5	ha	
	計	846.3	ha	
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	田	312.2	ha	
	畑	30.4	ha	
	計	342.6	ha	
	i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計		-	ha
	ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	田	2.7	ha
畑		3.7	ha	
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	田	819.1	ha	
	畑	-	ha	

2 対象地区の課題

①経済的問題

- ・農業所得の減少
- ・農機具が高価で購入(更新)が困難
(農業用機械の故障・老朽化)
- ・生産コストがかかりすぎている
(経費負担が多く農業魅力がない)
- ・資金不足
- ・米価下落でやっていけない

②人材的問題

- ・中心となる働き手の高齢化、労働力不足
- ・農作業の引き受け手がない
- ・後継者問題
(このままでは農地が荒れていくようで心配)
- ・農地は受託したいが、これ以上、受けられない
- ・耕地は狭小で、高齢化して農機具も購入できず、
後継者は明確でない

③環境的問題

- ・農地が狭い・遠い・条件悪い
- ・転作など(適当な転作作物がない)
- ・鹿などによる被害が深刻
- ・傾斜地・排水不良等で、土地条件が悪い
- ・山畑について、年々荒れている
- ・作物を作れるが、作物を売る場が少ない
- ・ハクビシンの被害も大きい
- ・農地集積したいが、見つからない
- ・貸したくても条件が悪く、貸せない借りたくない
- ・暗渠排水が悪いところは、うけない

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

- ・現状維持。
- ・優良な農地を守るため、農用地区域の指定が不可欠。
- ・優良な農地を守るため、農地の区画整理や農道、水路などの整備を進める。
- ・農業生産環境の維持と都市的生活環境の整備をバランスよく進める。
- ・耕作地集積。
- ・荒廃農地で農地に復旧の可能性のない所は、農地除外をしやすいようにしてほしい。

大谷地地区人・農地プラン

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

①農地・施設の貸付け等の意向

- ・農地を買い取ってくれる方がいれば、すぐにでも廃業したい。

②中心経営体の方針

- ・農地利用型農業から高生産農業への振興及び農地整備だけにとどまらず、高生産農業への後押しが必要。
- ・新たなインフラ整備をして、生活区域と生産区域を整備するべき。
- ・引き受け手の人材確保、若い労働力が必要である。
(既存の担い手だけでは難しい場合、新たな集落営農組織(担い手)を作り、集積・集約化を図る)
(農業用機械の共同利用化や生産資材の共同購入化)

③農地中間管理機構の活用方針

- ・後継者も無く高齢を迎え体も衰える中、荒廃しない農地の管理の在り方、早めの委託を促す組織の形成等が必要。
- ・農地の受委託推進は、農業委員会の働きかけが重要なので、もっと頑張りたい。
- ・畑地もうけたい。
 - ・できるだけ農地を受けたい。
- ・集積受託するに当たり、できるだけ集落内でお願いしたい。

④作物生産に関する取組方針

- ・集落の話し合いで農用地区域を定めたらよい。
- ・圃場整備以外の農地を農業振興地域から除外すること。農地の見直しすべきだと思います。
- ・麦の播種は天気に左右されるので、作業環境が重要だ。
- ・転作作物の麦・豆以外の作物の開発(国・県で)をお願いしたい。
- ・集積する受け手として暗渠の改良を願いたい。
- ・いろいろな転作作物ができるように、排水をよくする様にする。
- ・大谷地地区のブロック・ローテーションをするに当たり、虫食い状態にならないようにして欲しい。

⑤災害対策への取組方針

- ・鹿、イノシシ等の被害を減らすため、猟友会の駆除だけでなく、侵入防止柵や仕掛け罠など集落で実施できる体制づくりが必要。
- ・ほ場整備地区以外の一部の地域では春作業始まると用水路水位が高くなり、周辺の水田、畑が水没することがある。
このため、排水路の改修だけでなく、地域の共同作業による用排水路の維持管理も含めて排水の検討が必要。